

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400172		
法人名	社会福祉法人あおぞら福祉会		
事業所名	グループホームとぎしの家		
所在地	島根県雲南市大東町東阿用83番地1		
自己評価作成日	令和5年11月25日	評価結果市町村受理日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 32/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

とぎしの家がある場所は山や田んぼが近くにあり、各居室からは外の景色が見られ四季を感じて頂けている。ホールの窓からは近くの阿用小学校の子供たちが学校への行き帰りが見られる。敷地内には畑があり収穫した野菜を使う時もある。食事は温かくて尚且つ美味しい食事を召し上がって頂いている。ご利用者さまの個々の能力を大事にしており、居室やホール、玄関、廊下等の掃き掃除や算盤が得意な方は計算されたり、編み物でご本人用のマフラーを編まれたりと日常生活リハビリを提供させて頂いている。誕生日や行事には、担当を決めて楽しい時間を過ごして頂けるように企画を行い、日々のケアはとぎしの家の理念である「のんびり・ゆったり・心地良く」を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を開設して23年、事業所自体が地域の一員として活動し、事業所の取り組みや情報を伝え、利用者が地域の人と繋がりながら暮らし続けられるように取り組んでいる。コロナ禍は、外出や馴染みの人との交流は制限していたが、5類になりドライブで紅葉を見たり、家族と命日に墓参りする人や運営推進会議も対面で開催することが出来ている。隣接している事業所と合同で敬老会を開催し、職員による、手品、銭太鼓等を披露している。又、利用者が撚り縄を課外活動に活用する小学生に贈呈したり、賑やかな交流の場となった。職員は、利用者の生活歴の把握から趣味や得意な事等プランに挙げ一人ひとりが生き生きと暮らし続けられる様に情報の共有に努め支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	とぎしの家独自の理念「のんびり・ゆったり・心地良く」をミーティングの唱和して意識を高めるようにしている。今年度は6月の職員会の際に部長から法人理念の話をしてもらい研修を行った。	毎日のミーティング時に唱和し理念を確認し、実践に繋げるように意識付けをしている。今年度は担当者からの提案で法人の理念の理解を深めるために研修会を開催した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流は行えていない状況である。	コロナ禍で以前のような交流は出来ていない。部長が地域の福祉委員をしていて会議で事業所の取り組み等情報を伝えている。散歩時、小学生から声を掛けてもらう等交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治振興会より認知症の話をして欲しいと希望があり、福祉委員の方々にサポーター養成講座を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	第1回が7月に行って現在のところ第2回が終了したところである。会議の中で避難訓練の報告を行ったところ、避難場所に関してご意見を頂いた。それを次回の避難訓練に活かさせて頂いた。	対面での運営推進会議が出来る様になり質問や意見がもらえるようになった。避難場所について意見があり、検討することで安全確保への改善に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員の中には、雲南広域連合介護保険課や地域包括支援センターの職員さんが入って下さっていてとぎしの情報を報告させて頂いている。	運営推進会議に参加してもらい協力関係を築いている。感染症対策の助言や支援も受けている。相談事については本部を通して連携は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	屋間は玄関や裏口の鍵は開けており、自由に出入りが出来るようになっている。12月に身体拘束排除研修を企画している。	「拘束をしない支援」に努めている。事業所内で研修を企画したり、毎月のカンファレンスで身体拘束に関する話し合いを行い理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は12月に高齢者虐待防止の研修に参加予定である。職員全体では12月に高齢者虐待防止の研修を企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が12月に研修に参加予定である。その後、報告を含め内部研修の必要性がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の方々の表情をみながら説明をさせて頂いている。話し易い雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所へご利用料金を支払いに来られる際に、ご家族にご意見、ご要望を聞かせてもらう場を設けている。そのご意見やご要望を支援に反映している。	毎月利用料金支払に来訪があり、話し合いの時間を作り利用者の生活の様子や身体状況を説明している。直接意見や要望を聞き支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意図的、定期的に機会を設けていない。ミーティングやカンファレンスの際に職員からの意見や提案があったら、それを反映するように努めている。	日々業務の中で気づきや意見を聞いて、業務改善に繋げている。行事担当からの要望があればカンファレンスで話し合い職員の配置を調整しドライブ等企画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握した上で働きやすい職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握しながら積極的に研修を受けてもらえるように声掛けし向上していくように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大東町介護サービス事業所連絡会があり、今年度は交流会が企画されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族さまより情報を頂きながら、ご利用者さまが馴染みのある話などをしてコミュニケーションを図って信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーの方より、ご利用者さまとご家族さまの関係性等々情報を聞き取りしてその上で困っている事や不安な事など聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者さま、ご家族さまに対してどぎしの家での生活に対する意向を聞かせて頂き、意向も踏まえて必要なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業を行ってもらう際にご利用者さまと相談してご意見やご要望をもらった上で、一緒に作業等する事で、共に暮らしている関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援をさせて頂く際には、ご家族さまのご要望やご意見を聞かせて頂き、必要な場合はご家族さまにもご協力をお願いしている。例えば、家の周りの写真を撮ってきて頂いた事があった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望されるご利用者さまにはハガキを書いてもらったり、ご家族さまに馴染みの場所の写真を撮って来て頂き居室へ飾らせて頂いている。制限付きではあるが、面会を行っている。	馴染みの理容師さんの来訪や家族の協力で墓参りしている人もいる。家族とズームでの面会やラインでの連絡にも対応し関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの際に互いの顔が見えたり、触れ合ったりする事で互いの関係性が良くなるように努めている。ご利用者さま同士で支えあう姿が自然とみられる事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者さまの状態を聞かせてもらったりしながらコミュニケーションに努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画書の作成前や見直し前にはご利用者さまの意向を聞いて計画書に記載して反映しているが、職員本位になっている部分もある。(ご本人さまからの発語がない方に対して等。)	生活歴や家族から情報を聞いたり、一人ひとりの言葉やしぐさから思いを汲み取り本人本位の暮らしに繋げている。趣味等が継続出来る様に個別の記録用紙で確認し支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族さまや担当ケアマネージャーから情報提供してもらい、ご利用者さまがその人らしい生活が送れるように把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や体調をみながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでご利用者さまの状態を職員同士再確認して状態把握し、ご家族さまからのご意見やご要望も踏まえて作成に反映している。	家族や利用者の思いや意向を把握し介護計画を作成している。得意な事をプランに入れて生き生き過ごしてもらえるように支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援記録表には短期目標を記載している。職員の関わりについても個別の記録用紙になっており支援を意識出来るようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の際は基本的にはご家族さま対応をお願いしているが、状況に応じてはとぎしの家で対応出来るようにしている。買い物も生協や業者と連携を取りながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2~3カ月に一度、地域の散髪店の方に来て頂いてカットをお願いしている。ご利用者さまは髪を切る事で若返られたような感じで喜んで下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者さま、又はご家族さまがご希望されたかかりつけ医に往診や受診をされている。Drには状態報告を行っている。	入居前のかかりつけ医による訪問診療や専門科受診は事業所が送迎し、病院での対応は家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの生活相談員は、看護師が勤務の時にご利用者さまの状態報告を行ったり医療面の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携シート(雲南市独自)に入力しておき、入院された際にはすぐに情報を持って行き、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご利用者さま、ご家族さまに看取りに関しての意向を聞かせて頂いている。終末期になられるとご家族さま、主治医、とぎの家の三者で三者会議を設けて、どの様に支援をするか話し合いを行っている。	入居時、事業所の方針を伝え、家族、主治医、職員と話し合いを重ね、昨年も看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	7月にAED使用講習会(救急法講習会)を企画して研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関して、昼間と夜間想定を行い、訓練日の出勤者職員のみが行った状態である。今後は参加出来ない職員に対しても参加してもらおう方向である。	火災訓練を日中と夜間想定で実施している。業務の引き継ぎの時に通報等役割を確認して意識づけに努めている。定期的に防災関係(定期点検や備蓄)について確認もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他のご利用者さまが居室を利用されている事がありプライバシーを損ねている時があった。排泄・入浴・羞恥心に関して声掛けが不十分なところもあった。(声の大きさ等)	人生の先輩として尊重し接するよう心掛けています。声の大きさや早口にならないように言動に気を付けています。女性利用者の排泄時や入浴時、同性介助で対応し羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご利用者さまが自己決定できるように働きかけているが、職員の方が思いが強い時もあり言動で制止している事があった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望に沿って支援しているところもあるが、不十分などが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性のご利用者さまは髪をくしでなでられたり、化粧されたりする事もある。男性のご利用者さまは髭剃りをして頂いたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前や後のテーブル拭きを、ご利用者さまの意向を確認しながら行って頂いている。食器洗いをして頂いた事もあった。	正月やクリスマス、敬老会等、行事に合わせたメニューで食事を楽しんでいる。畑で収穫した野菜をおやつや食材に使用し話題にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者さまの状況に応じた刻み食やトロミ等を考慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人一人の口腔状態に合わせ、ブラシ、スポンジ、口腔ウエットティッシュで清潔に努めている。異常があればDrに報告し往診してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、習慣を活かしている。紙パンツ使用の方に対して状況をみながら、昼間は布パンツを履いて頂く支援を行っている。	一人ひとりの排泄リズムの把握や身体状況に合わせ声掛けや二人介助で適切な支援ができるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂って頂くよう飲み物を何種類か用意させて頂いてもらっている。また、体操を行ったり下剤を服用されているご利用者さまがスムーズな排便になるように下剤で調整させて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状は施設の都合で設定しているが、出来る限り希望等を伺いながら入浴して頂いている。	利用者の希望に沿った支援に努めている。身体状況に合わせてシャワーチェアを使用し、利用者の負担を少なく安全に入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	比較的、夜間は休まれている。ご利用者さまの中には牛乳で眠剤を服用した方が良く寝れるとおっしゃられる方がいらつしや、ご希望通りに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変更になるとお薬情報で確認している。服用後のご様子は観察させて頂き、往診時にDrに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中で好きな事や得意な事をして頂いているご利用者さまもいらつしやるが、すべてのご利用者さまに出来ない事もあるので課題である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご主人のお墓参りに行きたいとご希望されたご利用者さまがいらつしや、ご家族さまのご協力頂き、お墓参りされたケースがあった。	日頃は感染対策をしながら散歩や外気浴、ドライブでの花見や紅葉見にと出かけている。家族の協力で外出する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者さまの中で1名さま程、お金を所持されているが、買い物に出掛けて頂ける支援は提供していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族さまのご希望もあり、日曜日の午前中に電話でお話されるケースもある。また、ご利用者さまからのご希望でご自宅へ電話された事もあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内にはソファがあり、ソファで横になられたりとゆったりと過ごされる事もある。壁には時期にちなんだ飾り物を飾り季節感を感じて頂いている。	季節に合わせて壁画を飾っている。ホールにはソファ、広いテラスには椅子が置かれ外の景色を眺めながらゆったりと過ごしてもらえ場所もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでご利用者さまがゆったりとされたり、テラスで日光浴されたりと居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族さまにご協力して頂きながら、居室に飾る写真を用意して頂いたり、家で読まれていた本や日記を持って来て頂き、日記に関しては継続して書かれている。	持参したテレビ、ラジオカセット、配偶者の位牌や家族写真等利用者に合わせて自由に持ち込んでもらい、その人に合わせた居室になるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は、ほぼバリアフリーである。手すりは居室やホール内に設置している。		